

富山市天文台の歴史

富山市天文台は昭和31年に呉羽山に建設されました。

口径40cm反射望遠鏡は、当時公開天文台としては最大級のものでした。

その後、シュミットカメラ、冷却カメラの開発を行ったり、全国に先がけて、ビデオカメラで天体を撮影しました。しかし、街明かりが年々明るくなり、望遠鏡も老朽化していきました。



平成9年、とやま古洞の森の奥の「野鳥の園」に新しい天文台が建設されました。

1m反射望遠鏡を備え、二人同時に見ることができる新しいシステムを採用しています。

